

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	術前化学療法施行膵癌の術後早期再発予測因子の検討
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	北見智恵
2010 年 1 月から 2020 年 3 月まで NAC 施行後に切除した浸潤性膵管癌症例 66 例	
③概要	
【はじめに】膵癌において術前化学療法(NAC)が標準治療となったが、依然として術後早期再発をきたすことが少なくないことが問題である。【目的】早期再発症例を検討し、術前に予測可能因子はあるか、臨床病理学的特徴を検討した。【対象と方法】対象は2010年1月から2020年3月までNAC施行後に切除した浸潤性膵管癌症例66例。再発は56% (n=37)に認め、うち術後6M以内の再発は34.6% (n=17)であった。術後6M以内の再発を早期再発(ER)群と定義した。免疫、栄養指標として好中球/リンパ球比(NLR),リンパ球/単球比(LMR), Modified Glasgow prognostic score (mGPS), Prognostic nutritional index (PNI), Psoas muscle index (PMI), 肝/脾 CT 値を計測した。術後評価は術後3-4か月のデータを用いた。【結果】NACの内訳はGS 31例, GnP 31例, FOLFIRINOX 4例, 切除可能 47例, 切除境界 17例, M1(LYN) 2例, 再発部位はER群で遠隔転移(肝, 肺, 腹膜)94.1% (n=16)が有意に多かった。術前因子ではER群で女性46%(p=0.002), Hb (p=0.02), Cre (p=0.04)で有意差を認めた。有意差はないがCA19-9高値, PNI低値, LMR高値, NAC前後でCA19-9上昇の傾向を認めた。切除可能性分類, 手術因子(術式, 手術時間, 出血量, 輸血量, 門脈合併切除)で有意差なく, 病理組織学的検索ではER群で有意にリンパ節転移陽性 (p<0.0001), 遺残あり (p=0.01)。組織学的化学療法効果判定では差は認めなかった。術後因子はER群で有意に体重減少率多(p=0.02), 低PNI(p=0.04), 低リンパ球数(p=0.01), 高AST (p=0.03), 高ALT (p=0.04)であった。【考察】早期再発の多くは遠隔転移であり, 無効な手術を回避するための明確な指標の確立が必要である。術前のCA19-9値と推移, NAC後の低栄養が早期再発予測因子になる可能性があり, 手術のタイミング再考の一助になるかもしれない。周術期の栄養管理が必須である。また, 癌遺残は有意に早期再発を認めることから, 術前後の化学療法が予後改善のKEYとなった現在でもR0手術は重要である。	
④申請番号	受付番号 第487号
⑤研究の目的・意義	膵癌において術前化学療法が標準治療となったが、依然として術後早期再発をきたすことが少なくない。早期再発症例を検討し、術前に予測可能因子が明らかになることで手術のタイミング再考の一助になる。
⑥研究期間	2010 年 1 月から 2020 年 3 月まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	外科学会学術集会ホームページ
⑧利用または提供する情報の項目	血液 画像 病理 臨床記録
⑨利用の範囲	長岡中央総合病院外科部長 北見智恵
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	長岡中央総合病院外科部長 北見智恵

⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	長岡中央総合病院 外科 北見智恵 〒940-8653 新潟県長岡市川崎町 2041 番地 TEL 0258-35-3700 FAX 0258-33-9596
----------------------------------	--